

茨城県で一番低い山を巡る旅

各都道府県で一番低い山を探して登ってみようという試み、調べが終わると暇を見て出かけることを繰り返すうちに、少しずつではあるが前進してきた。大阪・東京・千葉（登頂はならず）・神奈川・埼玉と進んで、今月は栃木県に引き続き茨城県へ。

日本山名事典には、茨城県で一番低い山として天妃山（21m：北茨城・三角点あり）が示されていた。その他の情報を調べて見たら天神山（22m：東海村・三角点なし）の存在もわかったが、まずは天妃山（てんぴさん）を目指してみることに。

平成25年7月8日

10時半に自宅を出発、今日も天気予報が「酷暑」を報じているが、車の旅なので安心。

千葉北ICから東関東自動車道で潮来ICへ、国道51号線を北上して鹿島・涸沼を経て那珂へ。私の茨城県福島県方面へのドライブルートはこのパターンが多い。道路事情が良いので比較的順調に行くことができる。

塩崎から国道245号に入り、那珂川を渡ると一直線に真北に向かうようになる。「原子力・・・」という名前の施設が散見するようになると東海村。何気なく走っていると「村松虚空蔵尊入口」の道路標識が目に入って来た。「村松虚空蔵尊」と言う名前に魅かれて立ち寄って見ることにした。

右折すると緩やかなカーブの脇に公共駐車場が目に入った。ちょうど一台分空いていたので駐車。

太陽はちょうど頭上にあり、帽子をかぶらないと頭が暑い。道なりに進むと左手奥に立派な堂宇が見えてきた。村松山虚空蔵尊と刻んだ石柱が迎えてくれた。正式な寺名は真言宗豊山派日高寺だが、本尊が虚空蔵尊であることから、永く村松山虚空蔵尊と呼ばれているらしい。

仁王門をくぐり鐘樓の脇を抜けると本堂、さらに進むと奥の院と三重塔がある。三重塔の前を右回りに回り込むように道が付いており、その西側奥の小さな起伏に向かって緩やかに登って行くようになる。

小さな起伏の頂上は松林、一番高い場所を狙って登って行くと13時21分に平坦な山頂にたどり着いた。

四等三角点の石柱が堂々たる姿で叢を睥睨していた。海拔35.7m、国土地理院の地形図では「大神宮」となっているように見えるが、これは隣の山の村松皇大神宮を示すものだと思う。



仁王門に戻り、ついでに隣の村松皇大神宮にも入って見ることにした。伊勢神宮の御分霊を祀っており「茨城のお伊勢様」とも呼ばれているそうである。立派な建物が多く、かなり見ごたえがあった。国道245号線を挟んで西側に海拔22mの天神山があるのはわかっていたが、腹も減ったので駐車場を14時に出発。

国道245号線をさらに北上し、途中で見つけた蕎麦やで昼食。暑い日には熱い食べ物がよからうと思い、えび天ぷら蕎麦。

日立で6号線に入り、さらに北

上を続ける。15時半磯原駅周辺で地図とカーナビゲーションとで最終確認。大北川の河口の砂洲を見ながら国道を離れて海の方に入っていくとすぐに、弟橋媛神社駐車場と書いた看板が現れた、15時40分着。駐車場に車を

入れて海の方を見ると、人気のない民宿の白い建物の後に立つ緑に包まれた小さな膨らみが目に入った。鳥居の脇の石柱に「弟橘媛神社」と刻まれている。さほど広くもないがきちんと作られた石段を登って行くと「天妃山由来」と書いた説明看板が待ち構えていた。昔は朝日指峰と呼ばれていたが、元禄三年に水戸光圀公が祀ってあった薬師如来を村の松山寺に移し、代わりに唐の高僧心越禅師が携えてきた天妃神を祀って海の守護神とした。その後天保二年に徳川斉昭公が弟橘媛命（日本武尊の妃）を祀り、神社の守護神とし、神社の名前を弟橘姫神社として天妃神との合祀とした。と説明が書いてあった。

広場と言うほどに広くはないが平坦地があり、看板の横からやや南東方向に向かって一本の石段が登っているので入って見たら太平洋の絶壁の上にある狭い頂に出た。遠くに五浦方面の海岸線が良く見え、眼下には音を立てる白い波もうかがえる。それにしても三角点はどこにあるのだろうか？と首をかしげながら広場に戻って反対側の



ヤブを見たら、シノダケの間に土のう袋を敷き詰めた山道が見えた。入って見ると、本殿の後にある奥宮に上がれるようになっているようだが、奥宮は本殿の建物の中からは行けないようにフェンスで囲われている。フェンスに沿って登って行き、右回りにぐるりと回って戻ろうとしたその時、フェンスと絶壁の間の僅かな叢の中に「国土地理院」の標識、そしてその足元に三角点の石柱を発見。これが海拔 21m、天妃山の三角点だ。1mほど踏み込めば絶壁の下にある大北川の河口の海に転落することになる、文字通り「海拔 21m」。

無事三角点を見つけることができれば足取りは軽い。神社の鳥居がある登山口(?)に下って、山の周囲をくまなく観察して見たら、いくつもの驚きの光景が待ち構えていた。

山から下りてきた大北川は、海岸線まで来ると方向を直角に曲げて北に流れを変え、天妃山にぶつかって再び直角に曲がって東側の太平洋に注ぐようになっている。この奇妙な形の河口は大北川の流れと太平洋の波とのせめぎ合いでできた砂洲になっており、ちょうど満潮の今、川の流れと海の波とがぶつかりあって波と音を立てながら

ら岸辺の岩場をえぐっている所だった。天妃山の東側の海岸線沿いに立っている「全室オーシャンビュー」のホテルは海岸線に沿った岩場がえぐり取られており、もはや波の餌食となっていた。入口にはロープが張られて「立ち入り禁止」となっている。神社の入り口に立つ白いコンクリート作りの二階建ての民宿は、一階の濡れ縁を覆い隠すように砂礫が盛り上がり、その一部は家の中にまで入ってしまったようだった。これらの光景はすべて津波に



よるものらしい。

駐車場の付近の住宅地を歩いて見ると、何事もなく暮らしている家の外壁に水が滲みた模様が付いていたり、羽目板が外されてトタン板になっている家があったり、中には廃墟と化した家や廃屋もある。草の生えた空き地を覗き込んで見ると、コンクリートの基礎だけが至る所に残されていた。あの震災（津波）の前まではここには家が沢山建っていたようだ。

駐車場に16時19分に戻り、今宵の宿に向かって移動開始。途中で立ち寄った平潟港はあまりダメージを受けてはいないような感じだったので、被害の度合いは場所によってかなり異なるような感じがした。漁港とその海辺の山頂にある神社を見物した後、平潟港温泉の民宿かね久に入り、本日の旅程は終了。平潟港温泉の湯は、顔を流れて唇に辿り着くとかなりしょっぱいがよく温まる湯だった。

平成25年7月9日

いつものように朝風呂、朝食、ひと休みの後9時前にチェックアウト。今日も天気は快晴、このまま帰っても早すぎるので、陸前浜街道を北上して小名浜方面まで行って見ることにした。

強い日差しと中空の冷気のせいだろうか、海陸の境目に細い雲の帯が横たわり幻想的な風景になっている。

砂浜がきれいな海岸や眺めの良さそうな防潮堤を見つけては景色を楽しみながらぶらぶらドライブ。適当な所で折り返して、帰路も海岸線を南下し、気が向くままに車を停めての散策を繰り返しながら帰って来た。海岸線に沿ったかなりの集落で、昨日天妃山の入り口で見たような光景が見えた。日立市の街角に設置された地図に「津波の被害を受けたところ」が示されていた。海拔1~2m位の地域や海岸段丘の下の街道沿いに並ぶ住宅地は、ことごとく何らかの被害を受けたようだ。

帰りのルートも往路同様に、国道245号線・51号線経由で潮来ICへ、そして東関東自動車道で千葉北ICへ、19時前には帰宅できた。

以上